



札幌市立平岡小学校

学校だより NO.9

令和8年(2026年)9月29日

<https://www.hiraoka-e.sapporo-c.ed.jp/>

『令和8年度 全国学力・学習状況調査』の本校の結果のお知らせ

令和8年4月23日(木)に、全国の6年生を対象として『令和8年度 全国学力・学習状況調査』が実施されました。本調査は、全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、学校における児童への教育活動の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。

本校6年生の個人の結果につきましては、既に各家庭にお知らせしておりますが、この度、本校6年生全体の分析をお知らせします。このうち、「課題」につきましては、6年生だけの課題としてではなく、本校児童全体の課題として捉え、「改善の方向」も同時に、全学年を通じて改善を進めていくことと考えております。

なお、文部科学省が示しているとおり、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることを踏まえてご覧いただきたく存じます。

【国語】教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について

本校の概要

【指導要領の内容及び観点】

知識・技能

- ◆「言葉の特徴や使い方」に関する事項において、全国の正答率を下回っている。
- ◆「情報の扱い方」に関する事項において、全国の正答率を下回っている。
- ◆「我が国の言語文化」に関する事項において、全国の正答率を下回っている。

思考・判断・表現等

- ◆「話すこと・聞くこと」において、全国の正答率を下回っている。
- ◆「書くこと」において、全国の正答率を下回っている。
- ◆「読むこと」において、全国の正答率を下回っている。



課題

- 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと
- 考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解すること
- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと
- 引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方工夫すること

改善の方向

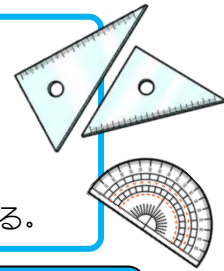
- ・ 比喩や反復などの表現に着目して読み、その効果を考える学習の充実
- ・ 学年別漢字配当表に示されている漢字を、意味や使い方を確かめ、文や文章の中で正しく使う活動の継続
- ・ 自分の考えと、それを支える理由・事例・情報との関係を整理し、情報との関係を整理し、根拠を明確にして考えをまとめる学習の充実
- ・ 複数の情報や図・表を関連付け、語句や語句の関係をとらえながら、分かりやすく表す学習の充実
- ・ 目的や相手に応じて必要な部分を引用し、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する活動の充実

【算数】教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について

本校の概要

【指導要領の内容及び観点】

- ◆「数と計算」において、全国の正答率を下回っている。
- ◆「図形」において、全国の正答率を下回っている。
- ◆「測定」において、全国の正答率を下回っている。
- ◆「変化と関係」において、全国の正答率を下回っている。
- ◆「データの活用」において、全国の正答率を下回っている。



課題

- 基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶこと
- 立体の体積の計算による求め方について理解すること
- 示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めること
- 示された条件を基に、調べたい数量の数や言葉を用いて述べること
- 示された2つの表を見比べ、誤りについて、その根拠を表中の数と言葉で述べること

改善の方向

- ・数量、図形、割合、単位の間を、図や表と結び付けて捉え、問題の場面に合う図を選んだり、自分で表したりする学習活動の充実
- ・立体の構成や体積を求める方法を具体物や図を用いて考え、公式を活用して求めることができるようにする学習活動の充実
- ・問題文や図・表から必要な情報を取り出し、数量関係に着目して、条件に合う時間や数量を求める学習活動の充実
- ・複数の表や資料を比較し、変化や対応する数量の関係を捉えながら、目的に応じて適切に指揮や答えを選ぶ学習活動の充実
- ・問題解決の過程を振り返り、求め方や考え方を図、式、言葉を用いて説明し、互いの考えを比較する学習活動の充実

【質問紙調査結果】学校や家庭での「学習」や「生活」の様子について

子どもの自己有用感・規範意識に関わって

- ◇「自分には良いところがある」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は全国を上回っている。
- ◇「先生は自分の良いところを認めてくれていると思う」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は全国を上回っている。
- ◇「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は全国を上回っている。
- ◇「学校に行くのは楽しいと思う」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は全国を上回っている。
- ◇「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は全国を上回っている。
- ◇「学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思う」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は全国を上回っている。
- ◆「人の役に立つ人間になりたいと思う」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は全国を上回っている。
- ◆「友達関係に満足している」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は全国を上回っている。
- ◆「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は全国を下回っている。

家庭での生活に関わって

- ◇「毎日同じくらいの時刻に寝ている」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は全国を上回っている。
- ◇「毎日同じくらいの時刻に起きている」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は全国を下回っている。
- ◇学校の勉強のことで、親や家族と話す頻度がほぼ毎日または週に1～2回以上と回答している児童の割合は全国を上回っている。
- ◇学校での悩みについて、親や家族と話す頻度がほぼ毎日または週に1～2回以上と回答している児童の割合は全国を上回っている。
- ◆「朝食を毎日食べる」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は全国を下回っている。

子どもの学校・家庭における学習の様子に関わって

- ◇「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は全国を上回っている。
- ◆「学校の授業時間以外に、月曜日から金曜日、1日1時間以上勉強をする」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は全国を下回っている。
- ◆「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができる」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は全国平均を下回っている。

<国語>

- ◆「国語の勉強は得意」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は全国平均を下回っている。
- ◆「国語の勉強は好き」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は全国平均を下回っている。
- ◇「国語の授業の内容はよく分かる」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は全国平均を上回っている。

<算数>

- ◆「算数の勉強は得意」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は全国平均を下回っている。
- ◆「算数の勉強は好き」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は全国平均を下回っている。
- ◆「算数の授業の内容はよく分かる」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は全国平均を下回っている。

<ICTの活用>

- ◇「ICT機器で文章を作成することができると思う」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は全国平均を上回っている。
- ◆「インターネットを使って情報を収集できると思う」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は全国平均を下回っている。
- ◆「ICT機器を使って情報を整理することができると思う」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は全国平均を下回っている。
- ◇「ICT機器を使ってプレゼンテーションを作成することができると思う」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は全国平均を上回っている。

<5年生までの授業>

- ◇「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は全国平均を上回っている。
- ◆「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は全国平均を下回っている。
- ◇「5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は全国平均を上回っている。

「質問紙調査」の結果から

本校の児童は、「自分にはよいところがある」「先生は自分のよいところを認めてくれている」と感じている割合や、「いじめは、どんな理由があってもいけない」と考える割合が、全国平均を上回っています。また、「学校に行くのは楽しい」「困りごとや不安があるとき、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と感じている児童も多く、安心して学校生活を送り、友達との関係にも満足している様子が見えます。一方で、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と考える児童の割合は、全国平均を下回っています。地域や社会とのつながりを意識し、自分にもできることを考える機会を大切にしていきます。

家庭での生活については、同じくらいの時刻に寝ている児童の割合や、学校の勉強について家族と話す時間をもっている児童の割合が、全国平均を上回っています。一方で、同じくらいの時刻に起きることや、朝食を毎日食べることには課題が見られます。心身の健康と意欲的な学習を支えるために、基本的な生活習慣を整えることが大切です。

学習面では、分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫している児童の割合が全国平均を上回っています。また、ICT 機器を使って文章やプレゼンテーションを作成することや、目的や相手を意識して自分の考えを表現することにもよさが見られます。一方で、平日の家庭学習の時間、友達との対話を通して考えを深めたり新たな考えに気付いたりすること、インターネットを活用して情報を収集・整理することには課題が見られます。特に算数については、「勉強は大事だ」「内容がよく分かる」と感じている児童の割合が全国平均を下回っており、学習内容を生活や将来と結び付けながら、分かる喜びを実感できる授業づくりが必要です。

お子さんの力を伸ばすために

お子さんは、自分のよさを感じ、友達や先生との関わりの中で安心して学校生活を送る力をもっています。学校では、このよさを生かし、友達との対話を通して考えを広げたり深めたりする学習や、ICT を活用して情報を集め、整理し、発信する学習を充実させていきます。算数をはじめとする各教科では、学んだことが身近な生活や社会とどのようにつながるかを実感できるよう、問題解決的な学習を進めていきます。

ご家庭では、起床時刻や朝食などの生活リズムを整えるとともに、学校で学んだことや出来事について会話をしていただくと幸いです。「今日は何が分かったの」「どうしてそう考えたの」と、お子さんの考えを聞いていただくことが、学びへの意欲や、考えを言葉で表現する力につながります。また、短い時間でも家庭学習に取り組む習慣をつくり、できたことや努力したことを認めて励ましていただければと思います。学校と家庭が連携し、お子さん一人一人のよさを伸ばしてまいります。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



ま：学んだことを一緒に振り返りましょう
 ほう：方法と一緒に考えましょう
 の：伸びを認め、ほめましょう
 かい：改善に向けて、生活を一緒に振り返りましょう
 わ：わからないこと、できないことに挑戦できるよう励ましましょう